

## 2024年9月度の観察記録

カテゴリ : 2024年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2024-9-8

2024年9月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

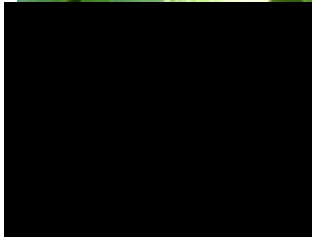
2024年9月8日(日) 9:30~11:50 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子  
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?13名, 子ども?1名 天気: 晴れ 8月の最終週には台風10号の影響もあってか最高気温が30度を下回る日もありました。このまま秋が訪れてくれればとの願いも空しく9月に入ると猛暑日が復活、この日も観測史上最多日数を更新しました。熱中症への警戒も継続しながら、あちこちで目立ち始めたキノコを多く観察する日となりました。里山の家そばのクスノキの幹を調べると、たくさんの生きものが見つかりました。じっとして動かないのは**イボバツタ**でした。**シラヒゲ** **ハエトリ**は絶え間なく歩き回り、顔の前で一對の触肢を時々動かしていました。その他ヨコヅナサシガメの幼虫も数頭歩いていました。

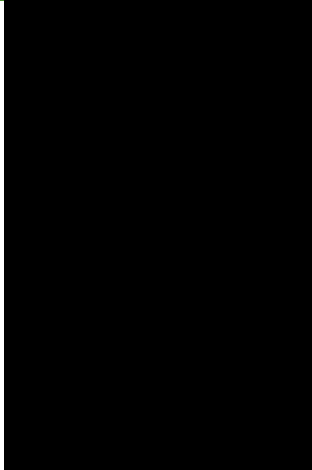




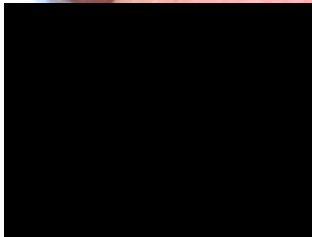
イボバツタ シラヒゲハエトリ                      今月もさとの道を進むことに**イタドリ**は白い花をつけていました。イタドリは雌雄異株とのことで、これは雄株でした。その近くで**カマキリ**の成虫が見つかり、子どもが虫網で捕らえて虫カゴに入れました。



イタドリの雄花 カマキリ      **ヤブガラシ**の花を観察しました。ヤブガラシは雌雄同株ですが、その花が咲いたあとは時間の経過とともにおしべが落ちてめしべが発達し、その色もピンク色に変化するという興味深い説明を聞きました。

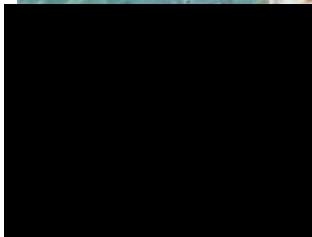


ヤブガラシの花                      この時私のズボンにイモムシがくっついているのを参加者から指摘されました。その時は何の幼虫かわからずどの植物に戻せばいいか分からなかったのですが、調べると**チャバネセセリ**の幼虫であったことが分かりました。チャバネセセリの食草はイネ科の植物です。

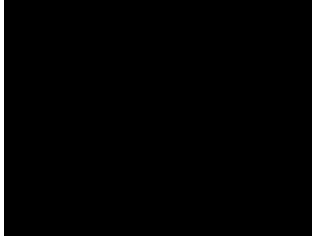




チャバネセセリの幼虫    クズの葉にはたくさんの食痕が**コフキゾウムシ**が見つかりました。またタラノキをよく見るとその葉に小さな甲虫が数えきれないほどついていました。3mmにも満たない大きさで、美しい金属光沢を放っていました。甲虫に詳しい参加者がその場で調べて**ドウガネツヤハムシ**と教えてくれました。



コフキゾウムシ    ドウガネツヤハムシ    道沿の**ウザクアミガサハゴロモ**の成虫がとまっていた。近年数を増やしている外来のハゴロモで、この自然観察会で何度も記録しています。今年の6月にも幼虫が観察記録に登場しました。またこの日は大きくなってきた**ジョウグモ**の網も多く見かけました。

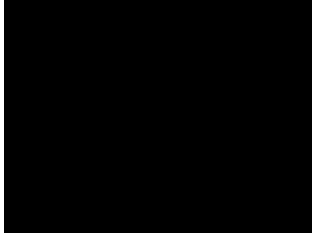


チュウゴクアミガサハゴロモ ジョロウグモ

以前にも話題になったよく似た植物の見分けとして、ママコノシリヌグイとイシミカワが久しぶりに取り上げられました。葉柄のつき方を比べるとその違いは明瞭で、ママコノシリヌグイの葉柄は葉の端に続いていて、イシミカワの方は葉柄が端ではなく葉の中に入り込んでいるという特徴があります。実の様子でも見分けられるとのことでしたので、実がつく頃にまた観察したいと思います。

以前にも話題になったよく似た植物の見分けとし





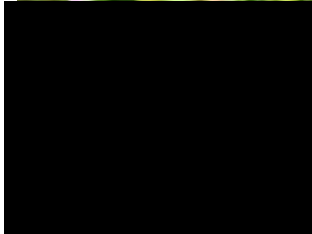
ママコノシリヌグイ イシミカワ      **カラス兎月**の花が咲いていた場所には実がなっていて、すでに色づいたものもありました。道沿いには**ツルマメ**の花も見られました。ツルマメは大豆の原種とのことで実を食べることもできるそうです。**ワカバグモ**がいたのでよく見ると、ハチらしき昆虫を捕らえているところでした。





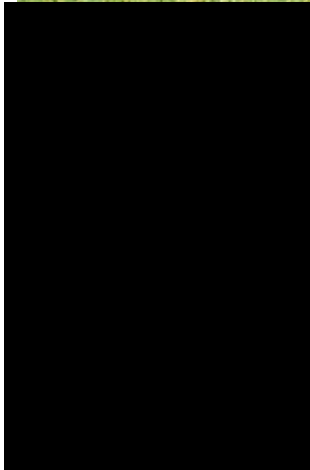
カラスウリ ツルマメ ハチを捕食中のワカバゲモ  
網で捕らえたオオシオカラトンボを見せてくれました。年中さんだそうですが、虫を持つ手つきは  
馴れたものでした。田んぼの周辺ではキツネノマゴが小さな花をつけていました。

田んぼに移動しました。参加者の男の子が虫



オオシオカラトンボ キツネノマゴ  
るヤママユが田んぼの鳥よけの網に内側からつかまっていたので、この観察会の代表が救出しようと裸足になって田んぼの中に入っていました。一旦イネの  
間に落ちたように見えたヤママユは、再び飛んで網の目を抜けて遠くへ飛び立ってしまいました。

急に男性の大きな声が聞こえました。見ると大型のガであ



田んぼの網にとまったヤママコ  
この日はキノコが大好きな女性の参加者からたくさんの種類のキノコを紹介してもらいました。写真はその一部ですが、1週間前の雨のせい、一斉に姿を現したように行く先々でさまざまなキノコに出会うことができました。

最初**木観察女の幼菌**はまだ小さなサイズでしたが、成熟すると色が変わり、傘の中央に空いた穴から胞子を飛ばすようになるとのことです。林間では**イグチ科のキノコ**をいくつか見ることができました。**キクバナイグチ**は柄の色が赤みを帯びていました。成熟したもの傘はパンケーキのように分厚く広がっていました。**キイロイグチ**は鏡を下に置いて傘の裏側にヒダがなくスポンジ状になっているのを確認しました。**ドクツルタケの仲間**は柄の途中につばがあり、傘の裏側には深いひだがありました。そのひだの中には小さなハネカクシがたくさん入り込んでいました。田んぼの南側の草むらで見かけた**ニオイワチタケ**は手のひらで覆って鼻を近づけて匂いを嗅ぐと、スパイシーな香辛料のような香りがしました。







ホコリタケの幼菌 イグチ科のキノコ キクバナイグチ





キイロイグチ ドクツルタケの仲間 ニオイワチチタケ

平和公園での観察項目：オオウラジロノキ, キマダラカメムシ, ハエトリグモの仲間, イボバツタ, ヨコヅナサシガメの幼虫, シラヒゲハエトリ, キンエノコロ, イタドリの雄花, イボタノキ, ウ斯巴キトンボ, ナナホシテントウ, カマキリ, ヤブガラシの花, チャバネセセリの幼虫, コフキゾウムシ, ドウガネツヤハムシ, イトトンボの仲間, タラノキの花, クルマバツタモドキ, マメガキ, ママコノシリヌグイ, チュウゴクアミガサハゴロモ, ホコリタケの幼菌, キバラヘリカメムシ, ミズヒキ, ジョロウグモ, イシミカワ, カラスウリ, カラスウリの虫こぶ, ツルマメ, アキノノゲシ, ヤブラン, ワカバグモ, イグチ科のキノコ, ドクツルタケの仲間, キクバナイグチ, ヒナノヒガサ, ムラサキヤマドリタケ, カワラタケの仲間, サトキマダラヒカゲ, イネ, ヤママユ, オオシオカラトンボ, コテングタケ, ニオイワチチタケ, ドクベニタケ, イネの止葉, オオオナモミ, キツネノマゴ, アリの巣, ツクツクボウシの声